

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201545		
法人名	有限会社ブロケア		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目6番30号		
自己評価作成日	令和5年7月18日	評価結果市町村受理日	令和5年9月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170201545-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とご家族様の尊厳や願いを最大限尊厳し笑顔に満ちた安心と充実した暮らしを提供します。。。を理念に掲げ常に利用者様を主としたケアに取り組んでいます。家庭的な雰囲気の中で職員一人一人が入居者様と生活を共にしていることを意識しゆっくりと関りをもつようにし、落ち着いた環境でコミュニケーションをとり、居心地よい温かい、安心・安全な生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から20年目を迎える「グループホームゆうあい」は、JR篠路駅から徒歩圏内で横新道沿いに位置する3ユニットの事業所である。法人は高齢者及び障がい児向けの福祉事業を展開し、敷地内には当事業所と併設の児童デイや小規模多機能型事業所、住宅型老人ホームが隣接しており、複合型施設として、通所利用、行事交流、運営推進会議や災害対策等で協力体制を築き、職員は情報を共有している。長引くコロナ禍で公の行事が殆ど休止状態の中、事業所は外部との交流のリスクを家族と話し合い理解や協力を得て、墓参、婚礼、美容室訪問、自宅外泊、外食等を実現するなど、利用者が社会とのつながりを育めるよう家族と共に支えている。毎年の研修計画の中で、本年度は身体拘束や虐待防止、リスクマネジメント等について学び、職員は理念を基に、利用者に寄り添い、尊厳とプライバシーを守り、本人主体としたサービスの実践を目指し取り組んでいる。事業所は看取りに備え医療機関と連携を図り、職員は終末期支援について本人の思いの把握に努めるなど、職員と利用者同志が安心な存在となる関係性を築きながら最期までその人らしい暮らしを営めるように援助している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印			項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と	
			2. 利用者の2/3くらい				○	2. 家族の2/3くらい	
			3. 利用者の1/3くらい					3. 家族の1/3くらい	
			4. ほとんど掴んでいない					4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日	
			2. 数日に1回程度ある					2. 数日に1回程度	
			3. たまにある					3. たまに	
			4. ほとんどない					4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている	
			2. 利用者の2/3くらい				○	2. 少しずつ増えている	
			3. 利用者の1/3くらい					3. あまり増えていない	
			4. ほとんどいない					4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が	
			2. 利用者の2/3くらい					2. 職員の2/3くらい	
			3. 利用者の1/3くらい					3. 職員の1/3くらい	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が	
			2. 利用者の2/3くらい					2. 利用者の2/3くらい	
		○	3. 利用者の1/3くらい					3. 利用者の1/3くらい	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が	
			2. 利用者の2/3くらい					2. 家族等の2/3くらい	
			3. 利用者の1/3くらい					3. 家族等の1/3くらい	
			4. ほとんどいない					4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらい						
			3. 利用者の1/3くらい						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念を掲示しその内容が職員全体に浸透するよう行っています。	利用者、家族の尊厳を尊重し、地域密着型サービスを踏まえた理念は、パンフレット及び事業所内に掲示して意識づけを図り、入社時にも理念の意義を説き、職員の共通認識に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで夏祭り等に地域の方々のご参加くださっていました。現在は行えていません。	町内会行事は自粛中だが、回覧板で情報を集め、資源回収や清掃活動に法人として参加協力している。地元住民からの野菜のお裾分けや併設の児童デイの子供達とプレゼント交換など、日常的な交流を育んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症に対する理解並びに当施設の取り組みを伝えることで関わりを持っていただいています。(コロナ過もあり書面会議でした)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の運営推進会議で行っていましたがコロナウイルスの感染予防のため 書面会議で行っていました。	2ヵ月ごとに開催される会議は、コロナ禍により書面会議としている。事業所の運営、利用者状況、感染症対策等を基本に毎回テーマを決めて報告し、構成委員や家族の意見、要望を聴取し、双方向的になるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや保護課など関係の深い機関と連絡をとっています。	行政とは各管理者がそれぞれの案件で担当者と関わりを持ち、得られた意見や情報を運営に生かすなど良好な関係を構築している。ZOOMで集団指導研修を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修会等で身体拘束の意味を理解し身体拘束をしないケアには取り組んでいる。また身体拘束適正委員会にて三ヶ月に一度会議を行っています。	身体拘束適正化委員会及び研修会は年間計画を立て定期的に開催し、身体拘束や虐待をしないケアの周知徹底に努めている。不適切な場面では職員間で注意を促せる環境を整え、センサー使用時は家族の同意を得て、ケアプランに反映し経過を観察している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で知識の習得に努めています。また事業所内で虐待が行われていないか管理者による見回りやスタッフのヒアリングを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している利用者様が居ないため現実的に必要性を感じていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、管理者が説明し不安疑問には随時理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前コロナ過で家族の面会は制限されていましたが、家族とのコミュニケーションを心がけて意見や要望の把握に努め出された意見をホーム運営に反映させている。	現在も面会は自粛中だが、電話やLINEで家族とつながり、情報を共有し意思疎通を図り、意見、要望の汲み取りに努めている。ユニットごと作成する「ゆうあい便り」、運営推進会議録を2ヵ月ごとに送付し、日常の暮らしを伝えている。利用者の要望には可能な限り対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通し意見を聞く機会を設け管理者を通し代表に提案できる環境にはある。	代表者と各役職者はグループLINEで運営や職員に関する実情を共有しており、職員の意見、要望は、日々の業務やミーティング時に吸い上げ検討しサービスに反映している。職員は特技を生かし積極的に役割を担っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやる気や能力等を給与の査定に反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の勉強会を設けています。また外部研修などで全体のスキルアップを図る取り組みも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区グループホーム連絡会に所属しているがコロナ過により開催には至らなかった。メールなどでのやり取りはしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の資料を参考に声掛けや傾聴しながら安心できる関係性を保つ。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や不安な事など要望に傾聴しながら家族が安心できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境に慣れるまで日勤帯、夜勤帯で連携を密にし職員同士情報交換しながら支援の方法を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや整理整頓など一緒に出来ることをしながら生活するうえで共に関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とこまめに連絡を取り合ったり協力やお願いなどできるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会や電話等で交流してもらい外出、外泊の要望があれば希望にこたえている。	電話の取次ぎは元より、コロナ禍にあっても感染症防止対策を講じて、家族、友人との面談に応じている。リスクに関して家族と話し合い、墓参り、行きつけ美容院、自宅外泊、外食など家族の協力を得て馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル配置や席などを工夫し 良好な関係を保てるよう努めている。時には利用者様同士協力しながら洗濯物を畳んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪があった時には様子を聞き傾聴している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら本人の希望や意向に沿うよう努めている。誕生日など本人の好きな食事などを提供している。	希望や意向の把握が困難な利用者が多く、基本情報に加え、職員は表情、顔色、態度、目線など多様な視点から思いの把握に努め、情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族と情報を共有しながらこれまでの生活歴やサービス内容を把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングで職員ひとりひとりが把握し共有することで対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の状況を把握し職員同士話し合う場面を設けご家族の意向も聞きながら作成している。	介護計画は利用者、家族、医療関係者の意向を踏まえ、短期・長期の目標を掲げた定期的見直しは勿論、日々モニタリングを行い、状態変化に応じて職員の最新の情報やアイデアを集め、実情に即した支援目標を定め、臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で気づいたことなどは記録し職員間で共有しながら実践やケアの工夫に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で支援できなかったので地域支援に取り組みたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者様が協力医の訪問診療を受けている。個別にかかりつけ医がある際はご家族が同行し情報を得て協力医とも連携を図っている。	受診は利用者、家族の意向を尊重している。現在は全員が協力医療機関の往診を月1度受けている。歯科も月2回往診対応である。かかりつけ医や専門医への外来受診は家族が対応し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護職員の訪問で利用者様の情報などを共有しアドバイスを受け支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関と常に情報交換し連携し退院時には早期受け入れの準備の体制に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でご家族へ終末期の看取り等に関する意向確認書で記入いただいているご家族もいらっしゃる。医療機関とも連携を図り事業所のできる範囲を説明し取り組んでいる。	入居時に指針を説明し、終末期の看取り等に関する意向確認書に同意を得ている。本人の終末期への思いを聞き取りながら、利用者にとり終の棲家になるように、家族、医師、看護師、職員とで方針を共有し、看取り支援に臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えフローチャートにて職員対応できている。応急手当などの研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	敷地内事業所行動で年2回日中夜間想定避難訓練、水平水害、地震の訓練を行っている。	年2回、設備会社の協力を得て、隣接の系列事業所と合同で、地震発生後の日中・夜間想定火災避難訓練、水害垂直移動訓練、初期消火訓練の実施と避難経路移動のシミュレーションを行い、備蓄品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりのこれまでのライフスタイル価値観を尊重し個別ケアしている。	人格尊重を示した理念に沿って、職員はケアサービスの基本を理解し、尊厳のある暮らしを支援している。申し送り時は部屋番号を使用し、個人情報保護に努めている。	今年度は、高齢者虐待防止のための介護職マナー向上勉強会を開催しているが、さらに職員の意識向上を図るために、ケア場面での言葉かけが適切であるかの確認と改善に向けて、接遇研修を検討しているので、その実施に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や自己決定できる場合はできる限り働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのできることやりたいことの希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を行っている。個別にご家族が同行し美容室へ行けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものや好きな食べ物を日常の会話やコミュニケーションから聞き、個々の誕生日やイベント時に好きなものを提供している。	ユニット別に、食材や天候、利用者の嗜好を参考にその日の献立を作成し、食事形態も工夫している。誕生会や行事食にはリクエストが多い出前寿司も取り入れ、喜びや楽しみをもたらし、食欲につなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調の変化に対応し食事形態や量を調整して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科医の訪問診療を受けている。口腔状態の良好を保つため口腔ケアを必ず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを知りトイレで排泄出来るよう支援を行っている。	自力排泄者もいるが、時間や習慣を把握し、声掛け誘導のもとトイレ排泄を促している。夜間のポータブルトイレ使用やベッド上での交換、衛生用品の選択等は困難要因を見極めて個別に検討し、快適さを求め支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分摂取が出来るよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	タイミング合わない時は後日、別の入居者さんを先にする等、順番を替えている。	一人、週2回を目安に入浴を支援しており、体調や状況に応じてシャワー浴を取りれている。拒む方には気持ちに寄り添い対応を工夫しチームプレーで試みるなど、安心感に配慮している。同性介助、入浴剤、入浴後の飲物は希望に沿って支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が出来ているので自然に眠くなり眠れる環境作りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局との連携があり症状や様態に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に楽しみをいただいていて、皆で嬉しい食事提供に努力し、手作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出は利用者状態もあり難しい。利用者によって通院、婚礼の出席、知人に会いに行くなどあり。毎週娘さんとの面会を楽しみにされている方もおり来て頂いている。	コロナ禍でのリスクについて家族と話し合い、感染症対策を講じて、冠婚葬祭への参列、行きつけの美容室、自宅外泊、外食など、家族の理解と協力を得て支援している。日常でも本人の希望に応じて、自販機やコンビニでの買い物を楽しんでもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はできないが、管理者が預かり欲しいものは購入させて頂き、本人に渡すなどの支援はしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間をみて電話を繋ぐ支援はしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごすことが多く配置に工夫している。 四季ごとの飾りつけに心がけている。	居間にはクーラーが設置され、採光や温・湿度管理が行き届いている。壁には利用者の作品である四季折々の装飾品が掲示され、温かな雰囲気を醸し出している。対面キッチンでは調理中も会話が出来、見守り易い。日中は殆どの利用者が居間に集い、好きな音楽を聞きながら談話やレク活動、テレビ鑑賞など、皆と一緒に安心と思える環境を作り上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で過ごす居間が好み笑顔もあり刺激もある環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや時計等を置くがほとんどの方はみられない。 あまり物などを置かない方が穏やかである。	居室にはベッドが用意されている。入居時には生活必需品から大切な仏壇、家族写真、アルバム、趣味の編み物や裁縫道具、CDで好きな演歌を聴くなど、寛げる空間を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全は確保しつつ出来ないところを介助している。		